

授業科目名	デスティネーションマネジメント論	担当教員	大社 充
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第3クォーター		
講義内容	<p>「観光立国」を掲げるわが国において、訪日外国人の急増、観光による地方創生といった背景により、デスティネーション・マネジメント（観光地域経営）の必要性が認識されるようになり、政府は観光地域経営法人（DMO）の登録制度を設け、その形成・確立に向けた支援に取り組んでいる。わが国においてデスティネーションマネジメントを具体的に実践していく手法については体系的に整理されていないが、本講座では欧米におけるデスティネーションマネジメントの概念を整理した上で、デスティネーションマネジメントおよびマーケティングの手法や事業の組み立てについて具体例を交えながら学ぶことを目的とする。</p>		
到達目標	<p>デスティネーションマネジメントの基本概念を理解する。そして、デスティネーションマネジメントの構成要素を整理し、要素ごとに事例を通して実践的な手法を学ぶことで観光地経営の方法論を理解する。また地域における（DMOによる）デスティネーションマネジメントのケースメソッドを活用して、その思考方法を身に着けることとする。</p>		
授業計画	<p>第1回 デスティネーションマネジメントの基本的な考え方 第2回 持続可能な観光とデスティネーションマネジメント 第3回 特定市場とデスティネーションマネジメント （文化観光・エコツーリズム・グリーンツーリズムなど） 第4回 特定市場とデスティネーションマネジメント （スポーツツーリズム・教育旅行・MICEなど） 第5回 地域の外に向かって① マーケティングとセールス、そしてブランディング 第7回 地域の内に向かって① 交通（需要）マネジメント 第8回 地域の内に向かって② 品質管理と安全管理 第9回 地域の内に向かって③ 景観政策とまちづくり 第6回 地域の内に向かって④ 産業連関表と地域経済構造 第10回 地域の内に向かって⑤ その他の受入れ環境整備 （アクセシブル・コンテンツ開発など） 第11回 地域の内に向かって⑥ その他の受入れ環境整備 （人材・観光DX・投資環境など） 第12回 デスティネーション実習（3年次）に向けて。</p>		
事前・事後学習	<p>観光地というものがどういう要素から成り立っているのかを事前に考えておくこと。そして学習後は、デスティネーションマネジメントの観点から観光地を眺めたとき、当該観光地における各要素の過不足を見極められるようにすることで、本講座で学んだ内容を実践的に理解できるようになることを期待したい。</p>		
テキスト	特になし		

参考文献	授業を進めながら学生の興味関心に沿って参考文献を提示する
成績評価の基準	授業態度 (40%)、レポート (60%)
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	観光分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	